

## 「縮小社会」を構想する思想的基盤

香川県 青野 豊一

田舎暮らしや農業を通して見た「縮小社会」を構想する思想的基盤について、述べたい。このことについては、『縮小社会への道』にも書かれていないので、このことはそれなりの意味があると思われる。

### 後姿で評価を!-「新規農業就労者」について-

都会から来た「新規農業就労者」は、私の住んでいる市では、どれも失敗して就労資金が交付されなくなると都会に帰っている。その理由としては

①農業では、現金収入が期待しているほど得られない。農業の年間サイクルを体得するには何年も要する。それまでは、失敗ばかりである。そして、低収入であることを覚悟しなくてはならない。

②労働がきつい。夏の日差しの中で大粒の汗を流して、労働しなくてはならない。固い意志がないと続けることができない。あるいは、その人にとっての何らかの「原風景」がないと、できない。私には、竹藪の原風景がある。両親の傍で、遊びか労働かよくわからないことをしていたのが、何故か輝いて思い出される。私の中では、竹藪の光は輝いている。朝日が竹の幹と葉に当たり、乱反射している。黄緑色の細い葉、緑の幹、下を見れば、黒い地面と落ち葉。そして、すがすがしい空気が身体に沁みこんでくる。身体はぎしぎしときしみ始めても、私はこの空間が大好きなのだ。

③田舎の空き家に住み着くと、今も周囲の人たちのまさしく互酬的な人間関係に振り回されてしまう。このことについては、私の『とんでもないことが!』(図書新聞社)に書いている。宗教の押しつけについて書いている。そして、ヘーゲル批判をしつこくしている。周囲の地域住民は、「美しいことを夢見て醜いこと」をしていることには、まったく気付かない。新規にその地に住み着いて周囲に気を遣っていると、まさしく遠慮なく心の中まで抑圧されてしまい、生活することが、耐えられなくなる。

だから、このような田舎の人間関係を無視して、ひたすら働き収入を増やして生活の安定を図るといふ強固な思想性が、どうしても必要となる。居住地の周囲の人たちの人間関係に埋没しては、評価を気にしては、暮らしは成り立たない。

④田舎暮らしには、四季の自然の移り変わりに感動する感性が必要である。金銭的損得感覚だけでは、田舎暮らしはできない。農民たちに、このような感性があるといっているのではない。ないと断定の方がよい。私の周囲の人たちは、自然の景色に心が動いているようにはとても思えない。でも、新規に始める者には、この感性がいる。四季の変化に、日々の単調な労働の中に、喜びを見出す感性がいる。

農業の年間サイクルを体得できて、生活がそれなりに安定してくると、周囲の人は評価を変えてくる。だから、田舎の人間関係に振り回されてはいけない。付き合うな!と言いたい。一生懸命働いている、その後姿で評価されたらよい。頑張ることができたら、そこから

新しい互酬的なネットワークが創り出されてくる。そうになると、田舎暮らしの楽しさを、それなりに味わえるようになる。

こうなるためには、周りの物質的、そして精神的な無駄なものを、人間関係を放り捨てなくてはならない。生活スタイルをシンプルにしないといけない。

### 「アートで田んぼプロジェクト」

私とおつきあいしている河野博さんは、米作りと米の「乾燥ともみすり」業を営んでいる。そして、冬場は芸術活動等の多彩なことをしている。

\*この方のブログをご覧ください。HP <http://tanbo.exblog.jp/> 「アートで田んぼ」で検索

田植え前の五月、田んぼの真ん中で、「アートで田んぼ!」という催しをしている。田んぼのここあそこに、このおっさんの制作した作品が展示され、音楽の生演奏がされている。近畿地方のバンドも来て演奏する。また、近在のおっさんたちも寄合い、食べ物を作り食べながらにぎやかに話しまくる。まさしく、田舎の山奥での催し物である。昼近くになると、若者たちが車を遠くの道路に止めて、音楽を聞きに田んぼまでぞろぞろとやって来る。このような、農的生活を通した自分なりに実現したいロマンがあれば、田舎暮らしも楽しくなる。

この前の三月、このおっさんとヨモギ餅を作った。蓬(よもぎ)を摘み、米を持ち寄り、ぺったんぺったん餅をつく。近在のおっさんが来て、「どれ、わしに(杵を)貸してみろ。」と言いだす。きれいな緑色につきあがると、90歳に近いおっさんの母親が、餅をちぎり取る。その傍らでは、猪の肉を焼いている。にぎやかになる。しばらくすると、付き合いのある音楽家たちが来る。ピアノを弾き始める。ニューヨークの繁華街を思わせるようなリズムが流れ出す。このような演奏を聞きながら、杵を振り下ろす。

### 田舎暮らし、有り余る物を活用する!

私の四季折々の暮らし方、田舎生活の楽しみ方を、ピックアップする。

**草** **ヨモギ**をたくさん摘み、蒸す。その一部はヨモギ餅に、残りはパックに入れて冷凍、さらに一部は、乾燥して粉碎して保存する。こうすると、いつでもヨモギ団子にできる。四月下旬には、**イタドリ**や**ワラビ**を塩漬けにして山菜ご飯や山菜うどんにして食べる。

**猪** この侵入を防がないと、何ものも収穫できない。退治した肉を、食べる。

**竹** おっさんはこの枝を使って作品を作り展示する。手入れしないと山は竹だらけになるので、伐採した竹を竹炭や竹灰にする。四月下旬には、いくらでも生えてくる**筍**を見るのも嫌になる。そこで、掘り取った筍を塩漬けにする。こうすると、年中、タケノコご飯やてんぷら、煮物が食べられる。

このようにして作ったものを、知人・友人・親せきに届ける。そこで、話し込む。またまた、いろんな物や情報がいただける。このように、人間関係を円滑にするものとして活用することに、互酬制(性)は意味がある。

これが、私の「縮小生活」であり、「縮小社会」を構想する思想的基盤となっている。